TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵　すべての男の頭(かしら)はキリストである
コリントの信徒への手紙一 11:2-16

2025年6月7日＆8日
余沢　武 牧師

I. イントロダクション

こんにちは。今日はコリントの信徒への手紙一に戻ります。私たちは、偶像や死者に心を込めて祈るとき、私たちは実に悪霊に心を込めていることになる、と学びました。

今日は、パウロが教会に礼拝する方法として、頭を覆うことから始めると教えていることから見ていきます。もし私たちが 1950 年代のキリスト教会に行くとすると、殆どすべての女性が帽子や何かで頭を覆っているのが見られたでしょう。今日ではそのような姿はほとんど見られません。TBC でも、せいぜい 2～3 人でしょう。なぜでしょうか？
それが今日の焦点です。祈りましょう。

II. すべての男の頭はキリストである

(1)かしら

コリントの信徒への手紙一 11:2-3 に行きましょう。
「2 ところで、あなたがたが何かにつけ私を思い出し、あなたがたに伝えたとおりに教えを守っていることは、褒めたいと思います。3 しかし、あなたがたに知っておいてほしいのは、すべての男の頭はキリストであり、女の頭は男であり、キリストの頭は神であるということです。」

礼拝するとき、私たちは権威や指導的地位の神が命じられた序列を意識する必要があります。
神から始まります。神はイエスの頭(かしら)です。神は偉大な無償の愛をもってイエスを導き、そしてイエスはすべてにおいて望んで神に従うことを選んでおられます。
イエスはすべての男の頭(かしら)です。イエスは十字架での死に見られるように、同じ無償の愛をもって全ての男性たちを導かれます。そして男性たちは、すべてにおいて望んでイエスに従うことを選びます。
男は女の頭(かしら)です。男性たちもこの同じ無償の愛をもって女性を、特に自分の妻を導き、そして女性も望んでこの神の御意思に従うことを選び、そして彼女達の夫に従います。
私たちはこの「無償の愛の神」と「望んで従う救い主」をあがめ、そして私たち自身が「無償の愛と共に望んで従う神の民」となることを誓うことで賛美します。これが礼拝です。

(2) 頭(かしら)を敬う

4節から6節です。
「4 男は誰でも、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けるなら、自分の頭を辱めることになります。5 女は誰でも、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けないなら、自分の頭を辱めることになります。それは、髪の毛をそっているのと同じだからです。6 女がかぶり物を着けないのなら、髪を切ってしまいなさい。女にとって髪を切ったり、そったりするのが恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。」

つまりこういうことです…。
公の礼拝の中で「祈りや預言をする」つまり神の御言葉を「頭にかぶり物を着けて」教える男性たちがいた、という意味です。そして女性たちは「祈りや預言」を「頭にかぶり物を着けずに」行っていました。

パウロの時代の歴史的背景を少しお話しします。
ユダヤ人の男性は、4 世紀までは公の場や礼拝では、かぶり物をつけませんでした。ユダヤ人の女性は、未婚であれば常に公の場や礼拝でかぶり物を着けていました。ギリシア人の男性は、公の場や礼拝ではかぶり物を着けませんでした。ギリシア人の女性は通常、かぶり物を着けていました---神殿娼婦だけは頭を覆いませんでした。ローマの男性は、彼らの神々に生け贄をささげるときは頭にかぶり物を着けていました。女性も同様です。

コリントはローマの都市だったため、男性たちはローマ人の影響を受け、教会の礼拝の際にかぶり物を着け始めました。パウロは「あなたがたは、自分の頭(かしら)であるイエスを辱めている」と言っています。

一方で、ある女性たちは教会の礼拝でかぶり物を着けるのをやめました。パウロは「あなたがたも、自分

の頭(かしら)である夫を辱めている」と言っています。さらに、「もし本当に自分の頭(かしら)を辱めたいのなら、姦淫で捕まった女のように、髪を剃るか、切りなさい」と言っています。

(3) 神の栄光 vs 人の栄光

7節-9節「7 男は神のかたちであり栄光を映す者ですから、頭にかぶり物を着けるべきではありません。女は男の栄光を映す者です。8 なぜなら、男が女から出たのではなく、女が男から出たのであり、9 男が女のために造られたのではなく、女が男のために造られたのだからです。」

創世記1章27節には、神は人を御自分のかたちに創造されたとあります。神が無償の愛で愛されるように、人も無償の愛をもって愛するべきです。彼らがそうする時、神が無から創造されるものを示し、彼らは「神の栄光」を表すのです。

出エジプト記で、モーセが神から十戒を受け取った後、彼の顔は神の栄光を映し出していました。しかし、人々がその輝きを恐れたため、モーセは顔にベールをかけて隠しました。パウロは「隠すな！」と言います。これが、神のかたちと栄光に驚嘆する礼拝なのです。

一方で、神は女性を男性のあばら骨から、異なる役割―男性の助けとなること―のために創造されました。こうして一緒に、男性と女性は神のかたちをより明確に表すのです。男性が神の無償の愛をもって女性を愛するとき、女性はイエスの望んで従う心で応えるのです。
そして女性がそうするとき、彼女は神が人間から創り出すことができるものを示します。それは「人の栄光」です。しかし、私たちの礼拝は「神の栄光」についてであるため、女性はそれを覆うべきなのです。

10節「10 ですから、女は天使たちのために、頭に権威の印を付けるべきです。」

かぶり物は、彼女が自分の頭(かしら)である自分の夫に望んで従うこと、神から彼女に与えられた「権威」を示しています。---神を礼拝する「天使たち」のように。

イザヤ書6章では、セラフィムと呼ばれる特有の天使たちが神の御前で賛美する様子が語られています。彼らは飛ぶために2枚の翼を持っていましたが、神は彼らに顔を覆うための追加の2枚の翼と、足を覆うためにさらに2枚の翼を与え、神の栄光の御前における彼らの謙虚さを現しました。

顔と足を覆って、彼らは叫びました。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな　万軍の主。その栄光は全地に満ちる。」女性がかぶり物を着けるとき、彼女たちは聖なる天使たちの謙虚な礼拝に参加しているのです。

11節-12節「11 いずれにせよ、主にあっては、男なしに女はなく、女なしに男はありません。12 女が男から出たように、男も女から生まれたからです。そして、すべてのものは神から出たのです。」

ただ神が男性と女性に異なる役割を与えられただけで、一方がもう一方より優れているということではありません。私たちはお互いに依存し合い、共に「神の栄光」のために生きています。

(4) 結論

13節-16節「13 女がかぶり物を着けずに神に祈るのがふさわしいことかどうか、自分で判断しなさい。14 自然そのものがあなたがたに教えていないでしょうか。男は長い髪が恥であるのに対し、15 女は長い髪が誉れなのです。長い髪は、覆いの代わりに女に与えられているからです。 16 この点について異論を唱えたい人がいるとしても、そのような習慣は、私たちにも神の諸教会にもありません。」

パウロは「自然」がこのことについて教えているのではないか、と言います。男性は一般的に「長い髪」をしていませんが、女性は一般的に「長い髪」をしています。パウロは「そこから学びなさい」と言っています。彼は「そのような慣習」は「神の教会」--エルサレムにもエペソも、ないと結論づけています。

もし私たちが1950年代にいたなら、私たちはただ「アーメン」と言うでしょう。しかし、私たちは多くの人がかぶり物をする習慣を守っていない時代に生きています。それは、様々な学者によって異なる解釈がされているからです。私たちが同意する解釈によって、私たちは異なる反応を示します。

この教えは、女性が娼婦のような服装をして他の人の礼拝の妨げにならないようにするために与えられました。パウロの時代、娼婦はかぶり物を着けていなかったからです。したがって、適切な適用は、その文化や時代において不道徳な服装を身に着けないことです。

この教えは、神が与えた性別の区別が失われるのを防ぐために与えられました。しかし、かぶり物はもはや男女の性別の区別を示すものではないため、適切な適用は、その文化や時代に合った性別を示すことです。
この教えは、神、イエス、男性、女性の間の愛と従順を通して示される頭（かしら）の地位を敬うために与えられました。しかし、かぶり物がもはや従順の象徴ではなくなったため、適切な適用は、その文化や時代に合った方法で従順を示すことです。
この教えは、神、イエス、男性、女性の間の愛と従順を通して示される（かしら）の地位を敬うために与えられました。しかし、聖書は、礼拝の際に男性はかぶり物を着けず、女性はかぶり物を着けることでそれを尊重するように教えています。ですから、その方法で尊ぶべきなのです。

私が読んだ 15 人の学者や著者のうち、この最後の立場を取ったのはわずか 2 人だけでした。神学者の故 R.C.スプロール博士は、自身がこの立場を取る理由を次のように説明しています。

聖書の教えを解釈するときは、それが「原則」なのか「習慣」なのかを見極める必要があります。「原則」とは、すべての人に、いつの時代でも、どの文化でもどんな状況でも適用される命令のことです。「習慣」とは、地域ごとに違った適用がされている「原則」のことです。

例えば、イエスがファリサイ人たちに皇帝（カエサル）の像のあるデナリオン銀貨を見せて、「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」と言われた場面があります。デナリオン銀貨を皇帝に返すことは「習慣」です。私たちは同じことはしません。しかし、税金を納めることは「原則」です。私たちはそれを行うべきです。

スプロール博士は、この教えが「原則」ではなく「習慣」だと考える人たちには「証明の責任」があると言っています。もし確信が持てない場合は、それを「原則」として扱うべきです。
もしそれを「習慣」だとして「従わず」、それが実は「原則」であった場合、私たちは罪を犯すことになります。もしそれを「原則」だとして「従い」、実は「習慣」であったとしても、それはただ熱心すぎるだけです。

問題は「かぶり物は原則なのか、それとも習慣なのか？」ということです。一つ確かなことは、パウロによると、この教えは「不道徳な服装」や「性別の区別」についてのものではないということです。それは「創造の秩序」へ仕える序列を通して---私たちの「無償の愛」と「従順」によって敬意をあらわす事です。

中には、「男性の無償の愛と妻の従順」は習慣だと言って従わない人もいます。これはその他、女性の地位や、結婚、また不道徳についてなど、通常現代の慣習に反する教えを拒否する人たちの立場です。
「男性の無償の愛と妻の従順」は原則だと言う人もいます。しかし、それを「かぶり物を通して表す」というのは「習慣」だと考えます。それらは文化や時代に応じて異なる方法で表現されるべきだという立場です。私が尊敬する多くの聖書学者はこの立場を取っています。

「男性の無償の愛と妻の従順」は「原則」であり、それを「かぶり物を通して表すこと」も原則だと言う人もいるでしょう。この立場を取る著名な学者としては、故 R.C.スプロール博士がほぼ唯一でした。私も彼と共にこの立場を取る非常に少数の人の一人です。

パウロは言います。「自分自身で判断しなさい。」

聖書には「信仰に基づかないものはすべて罪です」とあります。しかし、この教えの本質を見失ってはいけません。

私たちは「無償の愛の神」と「望んで従う救い主」を賛美し、「無償の愛と望んで従う者たち」となることによって、礼拝するべきなのです。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg2425jp

急募！

奉仕者募集中！

日本語訳レイアウト＆印刷（女性３名募集）

英語のスキルは必要ありません。
・月１回～、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org

★クラス 401
クリスチャンとして成長する
6 月 15 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 301 を修了した教会員

★クラス 402
キリストの伝え方
6 月 29 日(日)1:00pm – 4:00pm
場所: カンファレンスルーム
参加条件: クラス 101 を修了した教会員

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9 月 7 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu